

液化石油ガス事故 454 件 消費者原因事故が 194 件を占める ～消防庁平成 30 年ガス事故統計～

消防庁危険物保安室はこのほど「平成 30 年中の都市ガス、液化石油ガス及び毒劇物等による事故に関する統計」をとりまとめた。それによると、ガス事故（漏えい・爆発・火災事故）発生件数は 862 件で前年比 147 件（20.6%）の増加となった。

1. ガス種別事故件数は、都市ガスによるものが 408 件で前年比 11 件の増加、液化石油ガスによるものが 454 件で同 136 件の増加となった。最近 5 年間では、平成 29 年までは都市ガス事故件数が液化ガス事故件数を上回っていたが、30 年には液化石油ガスが上回った。

2. ガス事故の態様別発生件数は、都市ガス 408 件のうち漏えい事故が 347 件、爆発・火災事故が 61 件、液化石油ガス 454 のうち漏えい事故 250 件、爆発・火災事故 204 件となっている。

第 2 表 態様別の事故発生状況の推移（最近の 5 年間）

区分 年	都 市 ガ ス		液 化 石 油 ガ ス		計	
	漏えい	爆発・火災	漏えい	爆発・火災	漏えい	爆発・火災
平成26年	400	44	195	163	595	207
	90.1	9.9	54.5	45.5	74.2	25.8
平成27年	323	60	166	143	489	203
	84.3	15.7	53.7	46.3	70.7	29.3
平成28年	390	52	212	160	602	212
	88.2	11.8	57.0	43.0	74.0	26.0
平成29年	356	41	150	168	506	209
	89.7	10.3	47.2	52.8	70.8	29.2
平成30年	347	61	250	204	597	265
	85.0	15.0	55.1	44.9	69.3	30.7

注) 各欄の上段は件数、下段は構成比 (%) を示す。

3. ガス事故の発生場所別件数は約 7 割が消費先でのもの。都市ガスではガス導管におけるもの 201 件（49.3%）、消費先におけるもの 203 件（49.8%）、ガス製造施設におけるもの 4 件（1.0%）であるのに対して、液化石油ガスでは消費先におけるものが 387 件（85.2%）、ガス導管におけるもの 26 件（5.7%）、容器運搬によるもの 26 件（5.7%）、ガス製造施設におけるもの 15 件（3.3%）となっている。

4. 消費先における事故の発生原因別軒数は消費者に係る原因が半数を占める。ガス種別にみると、都市ガスでは 203 件中 97 件（47.8%）、液化石油ガスでは 387 件中 194 件（50.1%）とガスの種類によらず約半数を占めている。

